

合格体験記

氏名 F. Y

【合格した自治体（校種・教科）】

大阪府（中学校・美術）

①いつから勉強したか？また、どんな勉強から始めたか？

3回生の9月頃から参考書を集め始め、10月頃から本格的に筆答試験の勉強を始めました。
まずは教職教養から始めました。（年明けまでに教職教養を終わらせるつもりで…）

②あなたのオススメの教材とは！？

- ・実務教育出版「スーパー過去問ゼミ（教育原理・教育心理・教育法規）」…わかりやすい！見やすい！
- ・実務教育出版「教職教養・一般教養らくらくマスター」…電車や空き時間にちょこちょこと
- ・時事通信社「徹底解析教職教養・一般教養の過去問」…全国の過去問が載っています
- ・明治図書「中学校学習指導要領の展開 美術科編」…面接対策、模擬授業対策
- ・ぎょうせい「中学校教育課程講座 美術」…面接対策、模擬授業対策

③とっておきの勉強法

1時間と時間を決めて（タイマーかけて）勉強、そのあと15分休憩というように、メリハリをつけた勉強をしていました。

覚えにくい用語や法律の内容などは口に出して覚えていました。

絶対覚えなければならない文章などは、書いてトイレの壁に貼って覚えました。（結構頭に入ります！）

④1日に何時間勉強していたか？

机に向かう時間は平日4時間くらい、休日8時間くらい。電車での移動時間が長かったので、「らくらくマスター」を使って机で勉強出来ない分を補っていました。

⑤息抜きの方法は？くじけそうになったときは？

やる気が出ない時は思い切って遊ぶ。私は大声を出すとストレス発散になるので、カラオケや地元をドライブしたりしながら息抜きをしていました。

くじけそうになったときは、面接練習などで同期の皆の頑張りをみてモチベーションをあげたり、美術の教員として働いている先輩に相談したりしていました。

⑥どの自治体を受けたか？

大阪府、愛知県、神奈川県

⑦⑧を踏まえて、それぞれの自治体の面接や筆記（専門含む）などをどのように対策していたか？

筆答試験対策は、どの自治体も一緒にしていました。基本の勉強がある程度終われば「徹底解析教職教養・一般教養の過去問」やそれぞれの自治体の過去問を見ながら、傾向を調べ勉強しました。

専門は自治体の過去問を勉強し、「西洋美術史」「日本美術史」の授業を真面目に受けることです。面接対策は、まず各自治体のホームページを見てそれぞれの特徴や教育政策などを調べ、志望動機や自己PRなどを考えていました。専門の実技は、芸術学科の「特別プログラム（教職）」「立体感覚基礎演習」で対策できます。

⑧ゼミ（授業）や就活と教員採用試験の兼ね合いは？

4回生前期に展示会があり、その期間はほとんど勉強できませんでした。ゼミ課題の合間に縫って、文芸学部の図書館を利用したりやゼミ室でちょこちょこと勉強していました。ゼミ課題と重なると一気に勉強できないので「今日はこのテーマを終わらせる」「過去問はこの自治体まで終わらせる」など少しづつ、一日のノルマを決めて勉強しました。

⑨バイトやボランティアはどうしていたか？

教採の勉強が始まてもバイトは続けていました。（交通費や参考書代でかなりお金がかかりました）バイトは週2回、時間を夕方・朝だけにしてもらい、一日の半分を勉強や面接練習に回せるようにバイト先と相談しながら調整していました。

⑩大学生活中にやっておいた方がいいこと！

今、時間のあるうちにたくさんの展示会に行くこと！
自分の目で見て感じて伝えることができるようになること！
今までいったことのないところへ行く！したことのない事に挑戦すること！

⑪ナビの良かった点は？

沢山の仲間に出会い、強く大きな絆をつくることができた。
教科が違っても相談に乗ってもらったり、アドバイスをもらったり、一人ではなくナビの仲間全員で教員採用試験に立ち向かえたこと。
先生方・先輩方・7期生・後輩たち、縦にも横にも沢山のつながりができた。

⑫あなたはどんな先生でありたいか？

常に挑戦し続ける先生であり、どんなときでも笑顔でいて、自分の笑顔を子供たちにも与えていける先生。

⑬これから教員採用試験を受ける先生の卵たちへ！

最後の最後まで諦めない！倍率や教科の壁を怖がらない！
私は難しいと言われていた美術で合格をいただけました。それは自分一人の力じゃなく、周りの仲間や先生方、先輩方、後輩たちの応援のおかげです。失敗しても諦めず、「次は成功させる！」という前向きの気持ちを大切に、頑張ってください！